

平成 21 年度大学院教育改革支援プログラム
「助成の高度な職業能力を開発する実践的教育」
「キャリア形成のための院生自主企画」実施報告

・ 自主企画の内容

(1) 企画の名称

「中国の人口動向と高齢者福祉の改革 日本の高齢者福祉政策との比較から 」

(2) 開催日時・会場

2009 年 01 月 23 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00 大学院 E 棟 261 室

(3) 講演者

韓 榮芝 (九州文化学園長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科講師)

(4) 企画者

張 秀敏 (人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻)

周 疊 (人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻)

劉 順姫 (人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻)

賈 蕭明 (人間文化研究科博士前期課程住環境学専攻)

(5) 支援教員

中山 徹 (人間文化研究科住環境学専攻准教授)

(6) 参加人数

15 名 (内訳 : [学内]大学院生 7 名, 学部学生・研究生 1 名, [学外]7 名)

(7) 自主企画概要

現在中国では、高齢化が進み、家族扶養と介護が弱体化しつつある。また、改革開放により、国有企業の整理が進められ、本来職場組織で定年になった人の生活を保障することが困難になっている。そこで、近年中国政府が相次いで高齢者に対する政策、制度を打ち出している。

今回のセミナーは、中国の高齢者福祉を専攻している長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科の韓榮芝先生を招き、中国と日本の高齢者政策の違い、中国人口の発展の動向、地域コミュニティにおける高齢者福祉の発展などについて講演して頂いた。

その後の質疑応答において、高齢者問題に興味を持っている参加者たちに積極的に意見と質問

をして頂いた。高齢者介護において、制度の整備や人材の確保などの面で日中の協力関係を築いていけたらというような貴重な意見を沢山頂き、とても感謝している。

文責：張 秀敏

・実施報告

(1) 講演概要



【中国の高齢者福祉改革を取囲む社会の変化と制度改革の背景】 市場経済への移行に伴う社会問題の顕在化

1978年に中国は計画経済から市場経済へ移行し始めた。現代化を促進し、一部の地域を先に裕福にすることが政策の中に取り込んだ。その結果、地域格差や失業者の増加、政府に国民の不満など多くの問題を齎した。1992年から地域の格差を是非するために西部大開発などの政策を打ち出して、力を入れたが、失業者の増加、農民の生活、出稼ぎ者の生活、社会保障などの問題が深刻する一方である。

改革開放以降の地域社会の変動との特徴（1978年～現在）

現在、経済の急速的な発展により、IT化、グローバル化、サービス経済化、核家族化などが進行している。社会構造が変化し、家族の構造が伝統的大家族から核家族へと変化した。中国政府は諸問題を乗り越えるために「社区建設（コミュニティづくり）」を実施した。まず、福祉制度の改革において、地域社会の復活と再建をし、地域福祉サービス供給の要請をする。次に、福祉機能の転換において、人民公社、単位（全ての職場）メンバーから一般市民へ拡大する。また厚生福祉の提供から多様な生活サービス、福祉サービスへと拡大するなどである。さらに、福祉対象の拡大、それを重ね組み合わせるとこれから調和の取れる社会という目標になりつつあるであろう。

【中国の高齢化社会の現状と特徴】

中国は豊かになる前に高齢化社会に突入した。他の国（日本）に比べて、中国社会の高齢化の規模が大きく、進行速度が速く、不均衡な発展が特徴である。また、高齢化の地域差が大きく、農村は都市より1.24%も高い。現在、年平均3%の増加率で高齢化が進んでおり、2025年には2億9000万人に上ると予測され、日増しに厳しくなる高齢化問題（年金、保健・医療、福祉・介護）に直面している。さらに、「空巣（子供が巣立ち、親の世代しかいないこと）」老人が急速に増加しており、三世代が同一に暮らすという伝統的な家庭がますます減少している。また農村において、大量の「留守老人（子供が外に働きに出ているため、家を看ている老人）」が発生しており、家庭が老人を養う機能は日増しに弱体化しており、多くの老人に生活の保障がない。日本のように老人単身世帯や老老介護世帯など、社会的セーフティネットが保護すべき対象やその範囲が急速に拡大している。

【中国における高齢化の進展と社会福祉政策】

中国における高齢者福祉が多くの問題を抱えている。その対策として大きく2つ挙げられる。一つ目は年金・保険制度である。改革開放前は、国からの補償制度と企業・国からの労働保険の2種類の財源だったが、改革解放後は国民の需要に応じ民間の保険会社を参入できるようになった。また元来の保障制度の種類も増えた。二つ目は地域社会サービスである。高齢者サービス施設は、都市において順調に発展してきている。特に北京、天津、上海などの大都市が先駆的に進んできた。しかし、経済が発達している大都市は中小都市より水準が高く、沿海地域の都市は西部地域の都市より福祉水準が高く、深刻な格差がある。一方、農村における地域社会サービスは、都市部ほど普及していないが、近年大きな発展を見せている。

【日中両国の高齢者福祉における制度改革と課題】

近年日本の社会保障制度の大きな改革として年金の一元化、高齢者医療制度の創設、介護保険の対象の拡大の3つがある。しかし少子高齢化の進展により、社会保障（年金・介護・医療）制度改革が給付と負担の両面から課題となっている。それに対して、中国は1997年に都市部における従業員の年金制度が統一した。また経済的に医療保険に入れない人に対して医療救済制度を創設した。2005年に医療救助の財源は中央・地方政府の税財政や宝くじの公益金から賄う形になった。

【中国の社区を中心とした高齢者福祉の展開】

いろいろな現状と特徴を踏まえて、中国は先進的な国を真似しながら先駆的な事例を研究し、国情に相応しい福祉の推進の方法を探り、やはりコミュニティの中で地域福祉をやっていかなければならない。その背景として、改革開放による企業福祉から地域福祉への転換、核家族化と高齢化の進展、家族養老機能の低下などが挙げられる。地方や市民がこれから自らの力で将来をつくろうというような国・地方からの政策、宣伝があった。居民委員会の自治機能を強化し、NPO組織も創出された。さらに、近年各省、市など地方による高齢者福祉政策・制度が次々と打ち出され、社区コミュニティにおける高齢者福祉サービスの整備が進んできた。

【中国の高齢化社会の問題と課題】

直面される問題

厳格な一人っ子政策により、人口比率の深刻なアンバランスを加速している。

農村地区における老人の半分以上が医療保険を全く有しておらず、退職給付金を受け取る者も5%に満たない。医療保険の問題が直面している。

建国以来、老年社会保障、福利などにおいて基本の法律制度を完備、高齢者に基本生活の保障を努めてきたが、まだ十分ではない。

急速な高齢化と共に、老齡者のために社会福祉計画に欠けていることから、高齢者対策は今後の行方の見通しが見つからない。

高齢者に対する家族の生活保障は危機的状態に置かれている。

予想される問題

人口の急速な高齢化と経済成長により、今後数十年間において、中国の廉価な労働市場の優位性が

失われる。

2030～2050年の間に労働者対退職者の比率は2：1に縮小され、高齢者を養う圧力がますます大きくなる。

巨額の資金を医療システムや関連福祉サービスに費やすことになる。

【まとめ】

中国の高齢者福祉施策は、経済的、社会的原因によりまだ発展的段階であり、検証すべき課題は依然として多い。

現行の養老保障制度は、原則として「社会、家庭、個人共同扶養責任」という考え方であり、高齢者の基本的生活保障は国が第一責任として持つということではなく、多くは個人及びその家族が担うという仕組みである。これからは、新しい高齢者問題に対して、福祉制度、政策の改善がより一層求められることである。

高齢者福祉事業の展開過程において、経済及び地域格差によって、福祉サービスの提供システムも相当な違いがあると予測される。中国の福祉サービスを推進する際、高齢者が直面している地域生活問題を地域の中で解決し、あらゆる地域社会資源を活用し、高齢者の在宅自立生活を支援するという立場で、新たな「地域型福祉サービス」の道を開拓していく必要がある。

高齢者が安全且つ安心して在宅養老生活を営んでいくためには、公的保障制度・政策の整備は勿論のこと、地域を中心とした住民参加によるボランティア活動なども重要となる。

中国は数十年をかけて社会福祉を発展してきたが、まだ発展途上国であり、大きな農業国である。そのため、経済的基盤が弱く、現段階では社会保障制度も改革中であり、社会福祉の社会保障制度における位置はまだ重要なものではない。高齢福祉国家や日本など先進国に見られる社会福祉の多くの内容はまだ中国の社会保障体系に入っておらず、今後より一層体系化され、規範化される必要がある。経済の急速な発展・社会保障体系の整備と国民生活における需要の増加により、社会福祉制度も急速に発展するものと思われ、とりわけ少子高齢化の急進展により、高齢者福祉の制度改革も喫緊的な課題として一日も早く取り組んでいくことが求められる。

(2) 質疑応答



質問1、介護を担う人材はどうやって確保なさっていますか？これからどうやって養成していこうとなさっていますか？

回答：中国は急に高齢化社会が進んできましたので、まだこの面における人材の育成が遅れています。今政府も重視しているので、これから徐々に改善するのではないかと思います。今中国は色々な改革をしています。専門職の養成、特に専門学校など色々な種類の学校ではそういう養成ができています。

私はケアワーカーを育てるだけではなくて、やはり主にソーシャルワーカーを育てていくべきだと思います。もちろん介護も含めて、一般的に介護の出来る人材が必要です。中国は中央から何か動き、あるいは通知が下り、あるいは地方へ伝達したらすぐに一気に広げられる特徴があり

ますので、今ソーシャルワーカーの養成の大学は 100 以上も出来ています。今まで上海など一部だけの大都市では、民政局により養成の講座などが少しありました。また、去年からソーシャルワーカーの資格、試験も導入されましたが、しかし今試験を受ける人は必ずしも現場にはありません。人材がかなり不足しています。今矛盾しているのは、地域の居民委員会において、年配の方でずっと地域で働いてきて、ケアワーカーになった人が沢山います。しかし一方で中卒、高卒、学歴が低い、あるいは資格も持っていない人がほとんどです。これからそういう専門資格を取得する人、若い年層の人がどんどん増えるでしょう。

また、私は専門職として人材を養成することを重要視にすると同時に、地域住民の意識の変化も重要ではないかと思います。私が長年に亘って調査してきた結果の一つとして、人が足りないのではなく、今の若者はあまり仕事をしなくて、ふらふらして何もしない人が沢山います。これは認識の問題で、自分と関係ないこと、将来も考えずに何もせずに、暇があっても人の世話をしたくないという意識の問題も解決しないといけないと思います。たとえば、これから 10、20 年後、自分が高齢者、要介護になったらどうすればいいのかを考えて、今はお年よりの世話をして、その繰り返しで、次に自分も年を取ったら、また若い人に自分の世話をしてもらいます。そういう認識の変化も大事かなあとと思います。また、そういう人たちもやはり専門知識を身につけなければならないと思います。今居民委員会の中で、少しケアワーカーを増やすために、無料の地域の中での高齢者に関する勉強会があります。しかしこういう勉強会、動きはまだ僅かです。

質問 2、日本と中国の平均寿命はかなり違うのが分かりますが、中国の上海などの都市部と農村部の平均寿命の差は大きいですか？

回答：差があります。これは医療施設や医療保険との絡みが大きいです。農村のほうでは健康な高齢者が多いです。農村では、軽い病気ではあまり病院に行かないです。老後に自然に死んでいく考え方もまだ少しあります。それに対して、都会では、医療保険もちゃんと整備されています。経済の発展とともに豊かになってきたと同時に、生活上において食事など色々重視するようになりました。何か病気があったらすぐに病院に行きます。今日データを持ってきていないので、確実な数値ははっきりと分かりませんが、上海の平均寿命は大体男性 73 歳、女性 80 歳です。これは、収入との関係も大きいと思います。農村のほうは収入が少なく、都会のほうは生活が裕福なので、色々な面で注意することが出来ます。

質問 3、中国の平均寿命がこれから伸びてくる可能性が高いですが、しかし高齢化率が 50 年後にある程度安定してくると予測されています。この予測は寿命が長くなることを加算していますか？50 年後に中国は必ず安定できますか？

回答：これはあくまでも推測なので、平均寿命の延長の影響もあると思いますが、必ずしも高齢化の発展が同じようにいくとは限らないかなと思います。その中で色々な要因が絡んでくると思います。健康、福祉、社会保障などとの関係があります。農村部の女性の寿命がなぜ低いかと言いますと、生活保障がしっかり受けられていない、また年金、医療などの問題もあるでしょう。

質問 4、今年中国の GDP は日本を超えていると言われています。10 年、20 年後はアメリカを

超えるだろうとも言われています。人口が多いですが、今大学生が卒業して就職できない、就職難の問題もよく聞きます。それだけ経済が発展したのに、大学の数が増えながら、就職が難しくなっています。この状況になるのはなぜですか？

回答：これは一言で言い切れないと思います。今の若い人は就職難といいながらも、自分に合わない仕事だと思うと積極的にしない人が多いです。まず何でもやってみる意識がないです。自分の専門に合わなければ考えない。それが一つの要因だと思います。また、いろいろな世界、経済の影響で今就職は確かに前より難しくなっていますが、都市部へ行く、大学を卒業してみんな都会に就職したいです。今都会のほうに若者が溢れてきて、競争が激しくなっています。田舎も都市化してきて、徐々に都市地域になっています。これから田舎も都会になって、いろいろ分散して楽しく仕事ができ、仕事探しもう少し楽になるのではないかと思います。

質問5、中国では、養老院、在宅老処、社会福祉院、その他の活動センターなどはどのくらいありますか？また、どのようなサービスが提供されていますか？それから、これらの施設の中で、今介護福祉士がいなければ、看護師さんが高齢者の介護をなさっていますか？

回答：養老院などの数は「中国年鑑」に出っていますが、今日データを持ってきていないので、今言えません。そのサービスの内容については、施設の形態によって少し変わります。

養老院は生活保護を受けている人、身寄りのない人、いても生活困難な人を対象としています。これは社会福祉ではなく社会補助に入っています。施設に入居している人たちは全て国がその生活を賄います。

在宅老処は街道（日本の町にあたり、大体2～3万人ぐらいの福祉区域）が設置主体です。その事務所である街道弁事処は行政の出先機関で、社会保障も、年金も雇用もやっているので、日本の市役所に当たると思います。ここに入っている人は要介護の人がほとんどです。軽度もいれば、重度の人もいます。小規模でベット数は大体10個以内で、デーサービスの機能とショートステイの機能もあります。短期入所も長期入所もあります。中身は日本とあまり変わりません。リハビリしたり、食事したり入浴したり、後マージャンもよくします。軽度の認知症の人が多いです。要するに日中は一人であるいは家で過ごすことが困難な人は施設に預けます。最近認知症の人が増えてきています。

在宅支援センターは公民館やサロンみたいなもので、民間活動で自主的に組織化しています。病気予防には良いと思います。後助け合いも結構流行っています。特に上海では先駆的に積極的にやっています。電話の訪問、相談など、要するに同じ趣味の人たちは一緒に病気予防したり、活動を行ったりします。居民委員会は民間の団体です。日本の自治体に当たります。

文責：張 秀敏

（3）アンケート集計結果

アンケート

2010年1月23日
10枚配布 10枚回収

性別： 男性（3名） 女性（7名）
年齢： 20代（6名） 60代（3名） 70代（1名）
所属： [学内] 大学院（4名）
 [学外] 他大学（2名） その他（4名）
住所： 奈良県内（9名） 奈良県外（1名）

このセミナーに対するご意見、ご感想を聞かせてください。

意見1

- 1、パワーポイントの印刷をもう少し大きくして頂きたかった。（貴重な資料の字がみえません）
- 2、パワーポイントで資料に向けているところがあります。ぜひ、上記アドレスに送ってください。
- 3、とても貴重な話でした。中国の様子さすが中国という思いが致しました。

意見2

中国の福祉介護の仕組みがよく分かり、日本とあまり差がないことが分かった。

意見3

質疑の時間があって、とても良かった。資料もとても良かった。

意見4

このセミナーを通じて、中国の人口動向と高齢者福祉の改革、またその背景、さらに、日中両国の高齢者福祉の比較、中国の高齢化社会の問題など様々なことを分かってきました。私が研究している分野では、どちらかというと子どものほうですが、高齢者との関係が結構あると思っています。非常にいい勉強になりました。ありがとうございました。

意見5

中国について、自分が持っている情報が系統的に整理して説明していただき、中国の現状により良い理解が得られました。

日本において、少子高齢化が進み、国は問題解決のためどんな福祉政策をしようとしているが、それを支える介護要因をどのように育てるかに関心がある。

同様の困難な状況にある中国が、とろうとしている福祉政策には興味がある。

中国の社会体制が日本と異なる点が政策にどう反映され効果を出すか、中国の親を大切にする国民性は福祉をどう助けるか、看守りたい。

種々の制度の機能性、中国の介護要員教育方策など、現実の姿をきっと知りたい。

日本でも、若者の介護への関心が低いことが案じられるのですが、中国にも同様な意識がある

と知り何とかせねばの思いを強くしました。

意見 6

中国の人口動向と高齢者福祉のことを詳しく説明して頂き、よく分かりました。高齢者介護について、日中の協力関係などできないかと夢見しています。

意見 7

中国における高齢化について、いろいろ詳しく説明し、いい勉強になりました。しかし、介護サービスがまだ完善していない点に、具体的な問題が何かあると思います。もうちょっと説明していただければいいなあと思います。

意見 8

中国の高齢化社会の直面している問題、そして高齢者福祉の枠組みを丁寧に紹介してくださって、ありがとうございました。

今後は、それらの問題をどのように解決していくのか、また解決中にどのような新しい問題が出てくるのかなどについて具体的にしょうかいして頂ければ、ありがたいと思います。

意見 9

中国では、人口の増加が著しかったため一人っ子政策をとっていたが、その影響で高齢化に突入し、現在、様々な福祉政策をとっていて、その中で特に、宗教によるネットワークや、介護に関する講習の無償化に興味深かったです。

日々、あまりにこのようなことは勉強しないので、よい機会となりました。ありがとうございました。

文責：張 秀敏

(4) 総括

本セミナーを通じ、参加者たちは中国の高齢者人口、福祉制度、福祉政策と中国の介護制度と福祉のあり方を大まかに理解した。また、参加された方たちのアンケートからみると、韓榮芝先生は系統的に中国の高齢者情報と福祉情報を整理し説明していたため、このセミナーを聞いた後、中国福祉介護の仕組みや中国と日本の高齢者政策の共通点や相違点が分かったようだった。そして、中国の社会体制は日本と異なる点を持っているが、同じ深刻な高齢者問題を抱え、同じアジアの重要な国であるのでどうやって助け合うか、そして勉強しあうことも大切であると考えられている。参加者の皆さんは中国の詳しい介護制度と若者の介護への関心などについてより興味を持っていることがわかった。ほとんどの方はアンケートに連絡先を書き、今回のセミナーについての詳しい資料の請求と次回の関連セミナーの開催時、知らせがいくようにした。高齢者問題は一つの国の問題でもあるし、今世界で数多く発展途上国と先進国が抱えている問題でもある。今回のセミナーを通じて、皆さんは高齢者の福祉問題にさらに関心を持つようになったので、良い効果があったと思う。

文責：周 疊